

会議概要

【開催概要】

名 称：令和7年度 第2回 新潟市病院事業運営審議会

日 時：令和8年3月17日（火） 午後6時00分～午後7時00分

場 所：新潟市民病院 外来棟4階 講堂

出席者：委員 佐藤 昇、岡崎 史子、堂前 洋一郎、内山 政二、岡田 潔、前田 有樹、池田 良美、
清水 智子、佐藤 晶子、中根 薫、遠藤 真一、久保田 愛子

病院側 （病院事業管理者・院長）大谷 哲也

（副院長）今井 智之、五十嵐 修一、廣瀬 保夫

（副院長・看護部長）大島 紀子

（事務局長）渡邊 剛 （事務局次長・経営企画課長）高橋 直也

（管理課長）高橋 元 （医事課長）吉田 史子

（経営企画課長補佐）北村 明弘 （管理課長補佐）川崎 宗隆、遠藤 真希

（医事課長補佐）関 洋輔 （医事課医療 DX 推進室長）原田 和宏

（看護部副部長）本間 里香

傍聴者 1名

【審議内容】

○ 病院側より、議事第1号 令和7年度及び令和8年度病院事業について説明を行いました。

1. 令和7年度病院事業について

- ・ 職員の医療安全研修前期受講率は99.1%で、最終的には後期も合わせ100%となる見込み。
- ・ 患者満足度調査では、5段階評価で「4. やや満足」と「5. 全く満足」と回答した人数の割合を満足とすると、入院 94.1%、外来 88.6%が満足と回答した。また、職員満足度調査では、医師 66%、医療技術員 52%、事務 49%、病棟看護師 23%が満足と回答した。
- ・ ハイブリッド手術室の安定的な稼働を行った。令和7年1月の稼働開始から令和8年2月までに、経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）を73例行った。
- ・ 新規に設置された呼吸器外科の手術数は、肺癌に対する胸腔鏡下肺切除術を中心に100例を超える見込み。
- ・ 積極的に救急車の受け入れを行い、令和7年1月から12月までの救急車搬入数は7,263台で、過去最高となった。
- ・ 医師の働き方改革では、医師はA水準960時間以内を採用した。令和7年11月までの医師の平均超勤時間は例年並みで、960時間を超える医師はいない見込み。また、多職種によるタスクシフト・シ

エアを推進している。

- ・令和7年4月から令和8年1月までの平均在院日数は10.8日で前年度より0.3日短縮した。一般病床の病床利用率は87.0%で前年度より4.9ポイント増加した。入院診療単価は87,280円で前年度より3,430円増加した。
- ・令和7年度は経営コンサルタントの協力のもと、各プロジェクトに取り組んだ。令和7年度の医業収益は前年度より約18億円増加する見込み。

2. 令和8年度病院事業について

- ・救急車の受け入れをさらに強化し、より多くの入院患者を確保できるように効率的な入院管理を行う。令和7年度より多くの救急車搬入を目指す。
- ・高度急性期・急性期病院としての機能を強化し、質の高い医療を目指す。手術支援ロボット「ダ・ヴィンチV」を導入する。2台体制で前立腺癌、消化器癌の手術を行い、手術待機期間の短縮に努める。
- ・腫瘍内科を増員し、増加が予想される化学療法に対応する。また、前立腺癌に対して強度変調放射線治療（IMRT）を開始する。
- ・増加する心臓弁膜症に対して、ハイブリッド手術室の効率的な稼働を行う。
- ・政策医療の責任を果たすとともに、新規予定入院患者の増加を目指し、診療単価の増加に取り組む。救急患者の積極的受け入れや、年間手術数の増加による医業収益の増加を図るとともに、入院管理支援センターを新設し、平均在院日数の短縮を目指す。

3. 委員の皆様からのご意見・ご質問

～職員満足度調査について～

- ・職員満足度で、医師の満足度は高いが、病棟看護師は20%台と低くなっている。病棟看護師は救急医療に対応するため過酷な状況だと考えているか。
 - 医師は5年連続で60%台、病棟看護師は5年連続で20%台となっている。夜勤を多く行っている職種は満足度が低くなる傾向がある。夜勤回数が減らない中で、救急患者の積極的な受け入れにより患者数が増加し、満足度が低下した可能性がある。
 - 夜勤の二交替勤務の試行や、診療支援チーム活動の推進に取り組んでいる。
- ・看護師の夜勤は不満に通じることが多い。とはいえ、夜勤をなくすこともできない。職員が何を言いたいのか、どういう働き方をしたいのか、職員が抱えている問題に対してどのように対応できるのか、看護部全体としてどのようなことに取り組んでいくのか。
 - 二交替の実現には、解決すべきことが多い。引き続き取り組みを進めていきたい。
- ・新潟市民病院のような高度急性期病院では、必ずしも二交替勤務が良いとは考えていない。職員の意見を聴きながら最適な方策を見つけていってほしい。

～令和8年度病院事業について～

- ・ 令和8年度の計画で、3番目の「重症・専門・救急」に関する部分が新潟市民病院の特性を集約しているとする。

～医療DXの推進について～

- ・ DX化の中で、医師の記録については自動化が進んでいると感じられる。看護師の看護記録などどこまで自動化が進んでいるか。
→令和8年度に生成AIを用いた看護サマリの作成システムが完成する予定。仕事量がかなり軽減されると考えている。
- ・ 看護業務を圧迫しているのは、やはり日常の看護記録が主という結果もある。こちらの方もDX化を推進していただきたい。
- ・ 生成AIをどのような形で活用しようと考えているか。生成AIにも得意分野と苦手分野があり、上手く使わないと失敗につながりかねない。例えば、コンサルを入れたりするのか。
→生成AIを用いた文章作成を導入予定。また、画像診断支援でAIを導入している。結果を医師が確認する作業が必要になり、医師の業務が縮小されるわけではないが、精度が高くなるというメリットがある。

～退院時の薬剤情報について～

- ・ 入院患者さんが退院する際、入院前と退院時点で服用する薬剤の内容が変わることが多々ある。退院患者さんに対して退院時の薬剤指導を行ったり、薬剤の情報提供を行っている病院もある。そのような情報があると地域の調剤薬局としては、患者さんのケアがしやすくなる。生成AIの活用ができるようであればお願いしたい。

～看護師の採用見込みについて～

- ・ 新潟市民病院には、看護学生の実習を多く受け入れていただいている。今後の看護師の採用見込みについてどのように考えているのか教えてほしい。
→看護師の確保は、地方では難しい状況になっている。病院経営の状況も踏まえながら、地元の期待に応えられるような採用をしていきたいと考えている。

○ 病院側より「議事第2号 令和7年度決算見込及び令和8年度当初予算について」説明を行いました。

1. 令和7年度決算見込及び令和8年度当初予算について

- ・ 資料にもとづき病院側より説明を行った。

2. 委員の皆様からのご意見・ご質問

～呼吸器外科について～

- ・ 新規に設置された呼吸器外科が、どの部分にどのような影響があったか教えてほしい。

→呼吸器外科の収益は、令和7年4月から1月の累計で約1億3千万円となった。この金額が、令和7年度決算見込みと令和8年度当初予算の基礎となっている。

～病床稼働率などの目標設定について～

- ・ 三次救急の病院の病床稼働率は90%くらいが最大値だと考える。令和8年度当初予算では病床稼働率の目標が90%と設定されているため、令和9年度はこれ以上病床稼働率を上げることが難しい。これ以上の収入の伸びが期待できない中で、物価上昇率や賃金上昇率は、今以上のペースで伸びていくと思われる。令和7年度決算見込みの説明では、医業収益が増えた分、ほぼ人件費と材料費で消えたという説明があった。次年度以降のことを長い目で考えると暗たんたる気持ちとなる。今後の見通しについて聞かせてほしい。

→ご指摘のとおり、病床稼働率は90%が天井だと考えている。そうすると入院単価を上げていくことが必要だと考えている。同規模の公立病院の入院単価と比較すると、以前は平均より高かったのだが、近年は平均より少し低いところに位置している。今後は、入院単価の向上に向けた取り組みを進め、経営改善を図っていきたい。

- ・ 三次救急の病院では、病床稼働率が90%というのはかなり負担が高い。80%くらいでないとやっていけないのではないかと。また、現在の病床数でよいかということもある。それらを視野に入れ、長期的な計画を練っていただきたい。

→この病院の形をどうするかについて1年間かけて議論した。新潟・新潟市の人口動態や患者動向を踏まえ、どのように患者を獲得するか考えてきた。その結果、救急患者を積極的に受け入れて患者を獲得していけば、今後10年間は患者数を維持できるという分析結果となった。

→そのため、病床稼働率90%を目指していく。将来的には、人口が減少する時期を予測しながら病院経営に取り組んでいく。

【会議資料】

- 次第
- 議事第1号 令和7年度及び令和8年度病院事業について
- 議事第2号 令和7年度決算見込及び令和8年度当初予算について